

剥がれかけの鱗

第13期OB 川村 澄明

今年のOB・OG会誌は何を書こうか、去年は『風立ちぬ』の紹介みたいなエッセイだったから、もう少し仕事の内容でも掘り下げてみようか、などと考えていたら、1つの大きな後悔が頭をもたげてきました。そう、せっかくアニメ映画の話だったのに、アニメ聖地巡礼のことに何1つ触れてない！何を隠そう、第13期英論チームは、このアニメ聖地巡礼をテーマにした論文を執筆し、四分野インゼミ、さらにはGMC@香港、ICAMA@中国といった国際学会での発表も行っているのです。にもかかわらず、自分でアニメ映画を題材にしておきながら、そのアニメの聖地に触れないというミス。コロナ禍の中、旅行も憚られるご時世ではありますが、諸々落ち着いたタイミングで旅行を計画いただく際のインプットになればと思い、ちょっとだけ調べてみました。ジブリ作品は、制作サイドが聖地を明言しないことで有名ですが、中でも2つだけ、精度が高そうな聖地候補がありましたので、紹介します。

1つ目は、草軽ホテルです。主人公の堀越二郎とヒロインの里美菜穂子が再会した場所になります。こちらは、長野県にある、上高地帝国ホテルがモチーフになったのではないかと推察されています。パラソル付きのコテージはないですが、確かに、赤い屋根と木で覆われた壁という特徴的な要素を備えています。



アニメ



聖地候補（上高地帝国ホテル）

2つ目は、主人公が自らの身を隠すために利用していた、上司の黒川家の離れです。これについては、熊本県にある前田家別邸の草枕記念館が聖地の候補として有力だそうです。確かに、縁側の風景や、扉の小窓の形が酷似しており、参考にしていただけた可能性は高そうです。ちなみにこちらは、夏目漱石の『草枕』の舞台となったことで以前から有名で、スタジオジブリの社員旅行先にもなっていたとのこと。



アニメ



聖地候補（前田家別邸）

以上、『風立ちぬ』の聖地候補の紹介でした。コロナ禍が落ち着いた際には是非、聖地巡礼に行って、地域を盛り上げてください！

聖地候補の紹介にページを費やしすぎてしまいました。最後に、本当に書きたかったことで、最近涙した話を一つ。これまた映画の話になるのですが、今度は実写で、『糸』という作品のワンシーンです。あんまりネタバレするものよくないので、詳細な説明は省きますが、劇中で成田凌が歌う『ファイト』に泣かされました。「闘う君の歌を～」というサビ部分はあまりにも有名ですが、その他の歌詞までちゃんと聞いたのは、この映画が初めてだったことも涙した一因かもしれません。個人的に、中でも特に以下のフレーズが、胸に深く突き刺さりました。

「暗い水の流れに打たれながら魚たちのぼってゆく。光ってるのは傷ついて剥がれかけた鱗が揺れるから。」

途方もなく疲れて、時にがんばる意味さえ、見いだせなくなってしまうこともあるけれども、そんな剥がれかけの鱗でも、傍から見たら光っていることもあるのかと、また、自分からは光って見えるあの人も、暗い水の中をかき分けて傷つきながら進んでいたのかと。40年前から歌われ続けているこの歌詞によって、そんな可能性に気づかされ、そしてまた励まされました。容易に見失ってしまいがちな、がんばることの意味が、実はすぐそこにあるんだということを、まざまざと見せつけられ、それと同時に、自分のこれまでの努力が、同じように暗い水の中をくぐってきた先人たちがいたという事実によって、認めてもらえたような感覚に陥ったために、不覚の涙を禁じえなくなりました。映画『糸』がおすすめだよということの他に、何が言いたかったのかと言えば、コロナ禍で大変な時期けれども、疲れて諦めなくなる時もあるけれども、私は元気にがんばってるよってことです。皆さんにとって、この1年はどのような年だったでしょうか。



映画『糸』より、ファイトを熱唱する成田凌